

# 地域連携情報ハブ拠点を活用した 国際関係学部今後の取り組み

静岡県+日本大学（国際関係&理工）連携プロジェクト

提案・文責：日大理工交通 藤井敬宏

## 情報ハブ拠点の提案

### ■ 学生コンシェルジュセンター（仮称）

- ▶ 学内に開設する地域連携情報ハブ拠点に、多言語および観光学を学ぶ学生をコンシェルジュとして配置し、来訪者の案内や応対等の実学を学ぶ場として活用

#### 多言語の習得に励む学生たちの活用

英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、韓国語、ロシア語、アラビア語、スワヒリ語、モンゴル語、インドネシア語、ベンガル語、マレー語の13言語から選択して学べる学生たち

- ▶ ウーブンシティのインランドデポとしても利活用できる地域連携情報ハブ拠点にシステムアップ

- ⇒ 国際関係学部が行う社会貢献活動として開設
- ⇒ ウーブンシティの企画、建設状況等の情報発信 etc.



### ■ 自動運転車利用案内センター

- ▶ 自動運転の実証実験車の試乗予約等の情報確認
- ▶ 乗車後のアンケート等の受付窓口
- ▶ MaaS（Mobility as a Service）の情報発信

（シームレスな移動環境の確保  
予約・待合・運賃等の各種サービスの一本化の検討）

大学  
↓  
JR下土狩駅  
↓  
JR岩波駅  
↓  
ウーブンシティ



将来は自動運転  
の新たな  
モビリティ導入

### ■ 大学からの情報発信（市民・新幹線利用客向け）

新幹線利用客に向けた自動運転の実験・予定等のPR情報の発信

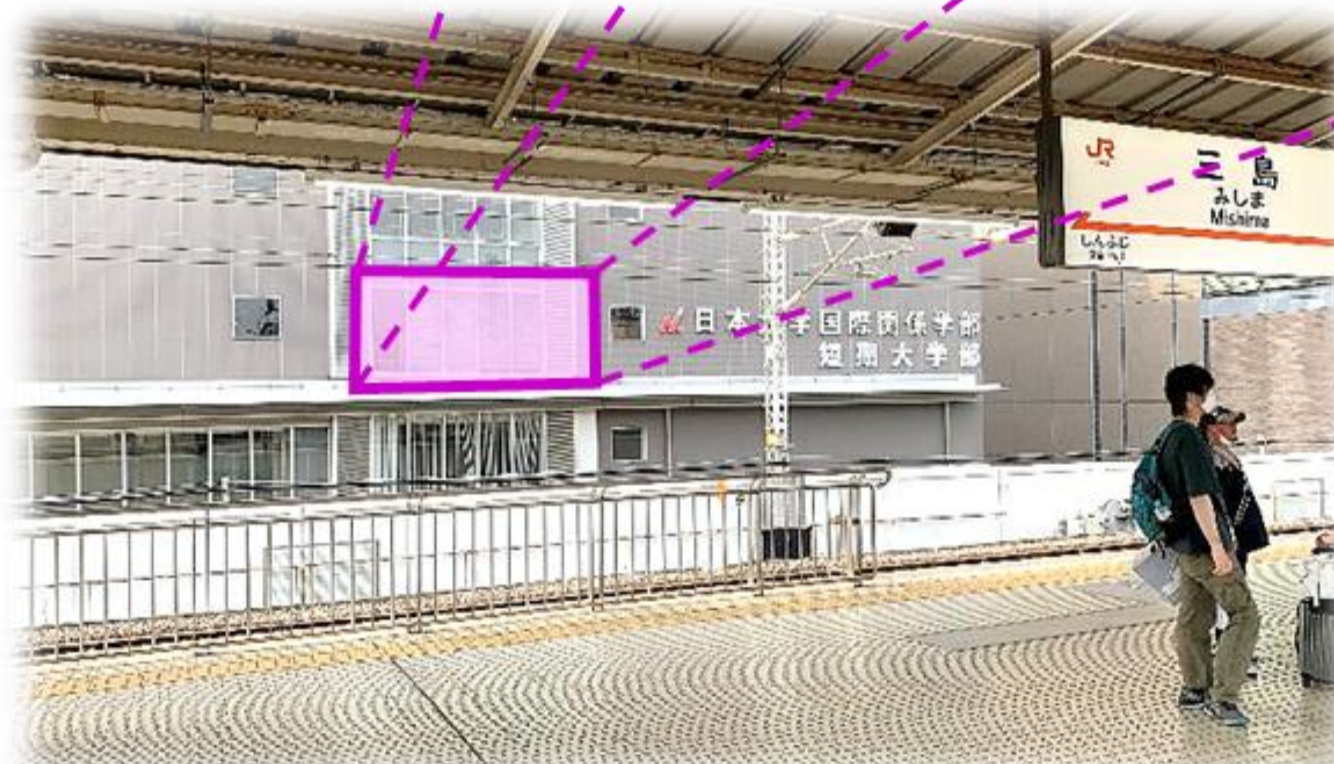
- ▶ 遠隔走行実験・成果動画等の映写
- ▶ 今後の実験予定等のアナウンス
- ▶ ウーブンシティの各種情報の発信
- ▶ 自治体の観光情報等の発信、etc



透過式スクリーンを介し、学内から各種情報発信



デジタルサイネージを活用した走行実験の市民向け情報発信



### ■ 情報ハブ拠点 来訪者の方々へのラウンジの活用

展望ラウンジ（学生食堂）の活用

ウーブンシティに来訪された国内外の方々が、情報ハブ拠点の利用時に、休憩、待合、シンポジウム、イベントパーティ等で利用できる展望ラウンジ

- ▶ 世界遺産の富士山の眺望
- ▶ 世界に誇る新幹線の見学
- ▶ 学生食堂の体験





# 地域連携情報ハブ拠点を活用した 理工学部の方々の今後の取り組み

静岡県+日本大学（国際関係&理工）連携プロジェクト

提案・文責：日大理工交通 藤井敬宏

## 石坂哲宏准教授による研究提案

### ■目標フレーミング効果を想定した自動運転システムの受容性の向上

#### 問題意識

- ・新技術への受容性は、技術へのリスクや不安が先行して高まらない
- ・社会全体で需要機運が醸成されると一気に利用意向が高まる
- ・その前段階の受容性の向上が課題である
- ・技術へのリスク・不安の動機（**防御焦点**）の活性化で受容性が減少する

#### 防御焦点の緩和

国際関係学部（三島駅前）  
見せる自動運転Show CASE



#### フレーミング効果

- ・同じ意味を持つ情報でも、焦点の当て方で、別の意思決定を行う認知バイアスのこと
- ・目標フレーミングとは、人々が意思決定した結果として達成される状態（目標 = goal）を活性化させ、意思決定を促すこと
- ・望ましい社会像（**促進焦点** = 目標）が活性化されて受容性が向上

#### 促進焦点の向上

ウーブンシティ  
身近な未来像



#### Step 1 : 国際関係学部・短大学生の参加型体験とアンケート調査

- 被験者群：① 何も情報提供しない層  
② オペレーションルーム等で技術を中心に情報提供した層  
③ ウーブンシティ等の未来像を中心に提供した層

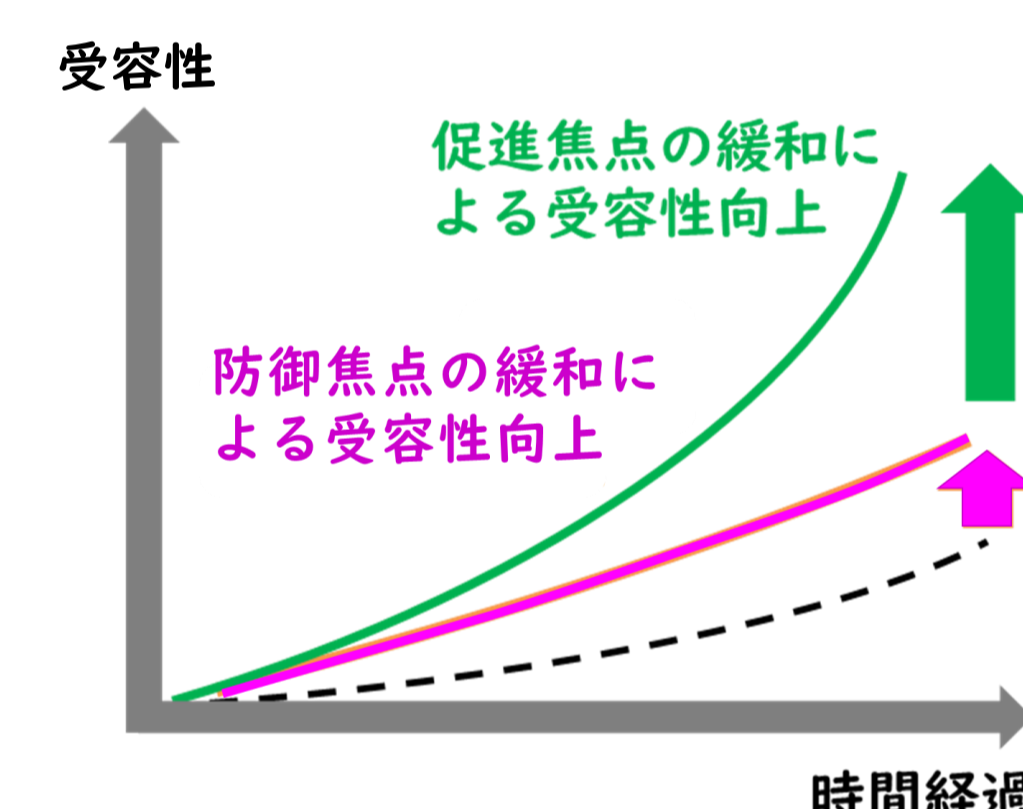
評価手法：Technology Acceptance Model (TAM, 技術受容モデル) を用いて、異なる3層の受容性の違いを評価する。

#### Step 2 : 2市1町の住民の参加型体験とアンケート調査

被験者群：Step 1 と同じ

評価手法： //

被験者群の①は、別途情報提供しない住民を対象とする。②、③は、まちづくり推進会議等の協力を得て、住民に参加していただく。



### ■自動運転レベル4による従道路交通を加味した路線信号制御

#### 【研究目的】

ミクロ交通シミュレーションを用いた路線信号制御の評価

- ① 従道路の自動運転車によるV2Iで従道路を含めた信号パラメータの最適化
- ② 幹線道路の副道とUターンを活用し、幹線道路と従道路の交差をなくした道路構造に切り替えた際の改善効果の検証

しかし、自立分散型信号制御は、ローカルな制御として局所最適解は得られるものの、ネットワーク全体の最適は保証されない。そのため、局所最適と全体最適の調和したネットワーク制御が必要

#### 【研究手順】

- ・路車間協調による信号先読み情報等をV2I、V2Nおよび車載カメラの画像認識より取得
- ・レベル4時の協調情報を用いたローカルな交差点信号制御を周辺車両情報より自律分散型で最適化
- ・これまで考慮されていない従道路交通を信号制御および道路構造に応用

#### 【研究のオリジナリティ】

- ミクロ交通シミュレーションを活用した局所最適と全体最適の調和の検討

